

4月30日、「最上小国川清流未来振興機構」の設立総会を開催しました。(本部長：最上小国川流域産地協議会 悪七幸喜会長、主な構成員：最上町、舟形町、小国川漁業協同組合、山形県並びに最上町及び舟形町に存する地域振興に主体的に取り組む団体)
今後、関係機関や団体が連携して最上小国川流域の地域資源を活かした活動や交流に取り組むことで、地域の振興を図っていきます。
最上小国川清流未来ニュースは、関係機関や団体による地域づくりの取り組み等をお知らせしていきます。
創刊号は、最上小国川清流未来振興計画の概要(目指すべき地域の将来像)を紹介します。



＜最上小国川清流未来振興計画の概要＞ 「先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川」

清流を守り、育て、活かす地域

最上小国川の清流を、住民、民間、行政など流域全体で守り、育て、未来へ引き継ぐとともに、清流を最大限活用した地域振興策を進める地域を目指します。

【代表指標及び達成目標】

- アユの放流量 50%増を目指す。
※ 対平成26年度(3,500kg)比
- アユの漁獲量 50%増を目指す。
※ 対平成26年度(23,111kg)比



治水や治山で自然と共存する地域

最上小国川流水型ダムなど自然環境に配慮した治水対策、治山対策に加え、地域の主体的な防災・減災活動により自然の脅威に備え、恵み豊かな自然と共存する地域を目指します。

【代表指標及び達成目標】

- 治水安全度 赤倉地区で50年に1度の洪水を安全に流せるようにする。(平成30年度達成)
- 内水排水能力 50年に1度の洪水時でも赤倉温泉地区の内水を排除できるようにする。

＜基本目標＞

いにしえ
古から清流最上小国川流域の自然と生活が築いてきた
魅力や価値を継承し、地域資源に新たな魅力と価値を加え、
新しい地域の文化を創造する。

川を知り、川に親しむ地域

親子の触れ合いや地域活動等を通して大人と子供の両方が、川の良さや怖さをよく知った上で、清流に親しみ、学び、楽しむことにより、交流を広げ、深めていく地域を目指します。

【代表指標及び達成目標】

- 中学生以下の最上小国川のイベント参加者数
年間8,000人を目指す。
※ 平成26年度 5,215人

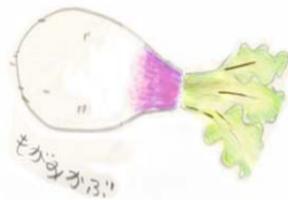


地元ブランドで活性化する地域

最上小国川の清流が育んだアユや豊かな里山から生産される農林資源を活用し、地元ブランドの新たな商品開発等を行い、地域住民の雇用拡大や生活の向上を進める地域を目指します。

【代表指標及び達成目標】

- 新特産品目数 農林水産物の新たな特産品3品目をを目指す。
※ 産出額5,000万円を超える品目
- 新商品開発件数 地域特産品の加工品開発10件を目指す。



おもてなしの心で癒す地域

最上小国川の清流をはじめ、流域にある温泉、森林など最上小国川の恵みと、それらを楽しみ活かしてきた暮らしそのもので、流域内外の人々をもてなし、憩いと癒しをもたらす地域を目指します。

【代表指標及び達成目標】

- 地域内の観光者数 年間150万人を目指す。
※ 平成26年度 93万人



裏面には、計画の基本目標、地域の将来像、実施する施策とその箇所等を取りまとめた「最上小国川清流未来振興図」を掲載しています。

お問い合わせ先：最上小国川清流未来振興機構(山形県 最上総合支庁 総務企画部 地域振興課内) 青木・瀬野
〒996-0002 山形県新庄市金沢字大道上 2034
電話 0233-29-1238 Email - ymogamishinko@pref.yamagata.jp

最上小国川 清流未来 振興図

基本目標

「古^{いにしへ}から清流最上小国川流域の自然と生活が築いてきた魅力や価値を継承し、地域資源に新たな魅力と価値を加え、新しい地域の文化を創造する。」

地域づくりの視点

- 安全で美しい地域基盤づくり
- 生活を向上させるものづくり
- 交流する場所づくり

地域の将来像

対象地域
山形県最上町・舟形町

計画期間
平成 27 年度～平成 36 年度

推進組織
最上小国川清流未来振興機構

地元ブランドで 活性化

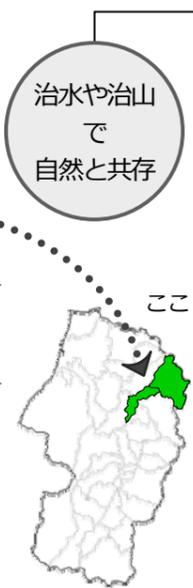
目標：雇用の確保につながるブランド品の創出 3 品目を旨す。

- 6次産業化の推進 (アユ加工品等の開発支援)
- 地域ブランド商品の開発
- 木質バイオマスの利活用の推進

Public Relations

広報

- 地域ブランド化シンポジウム等の普及啓発活動の推進
- 最上町と舟形町の町報による機構の情報発信
- 機構のホームページを制作し、インターネットを通じた情報発信



機構の未来イベントカレンダー

- H27 キックオフイベント (地域ブランド化シンポジウム予定)
- H28 全国豊かな海づくり大会関連イベント予定
- H29・30 高速道路関連イベント (地域交流イベント予定)

国宝「縄文の女神」
高度な精神文化が芽生えていた証

おもてなしの 心で癒す

目標：地域の観光者数 150 万人を目指す。

凡例

- 印：地域の将来像を実現するための施策
- 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
- 印：複数箇所で開催する施策の代表箇所



清流を守り・ 育て・活かす

目標：アユの放流量と漁獲量 50% 増を目指す。

- アユ等の放流
- アユ放流事業への支援
- 水源井戸の整備
- アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
- サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
- 中間育成技術の継承と人材確保・育成
- 環境モニタリング
- 魚道改修・修繕の検討・実施
- 河川工事における環境対策
- 水辺林、溪畔林の整備
- 計画的な保安林の指定
- 合併浄化槽の整備
- 農薬等の低減
- 間伐材の搬出・主伐後の再造林

先人から引き継ぎ、未来に伝える

清流文化 最上小国川

川を知り 川に親しむ

目標：子どもの最上小国川のイベント参加者数 年間 8,000 人を目指す。

- 1 アユ釣り教室の開催
- 2 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
- 3 イワナ、サクラマス等の産卵場造成
- 4 遊魚券の販売促進
- 5 ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用拡大
- 釣り場のアクセス改善
- イベントの連携検討

治水や治山で 自然と共存する

目標：50 年に 1 度の洪水を安全に流せるようにする。

- 1 最上小国川流水型ダム整備
- 2 河川整備 (長沢地内)
- 3 河川整備 (大堀地内)
- 4 赤倉地区内水対策
- 5 河川情報の提供 (ライブカメラ設置)
- 防災意識向上の推進
- 河川の効果的な維持管理
- 水位等の河川情報の提供
- 克雪対策の推進

高速道路ネットワークの形成 アクセス基盤が充実!

舟形 IC - 東北中央自動車道 - 山形自動車道 - 東北自動車道 (村田 JCT) 順次連結予定
舟形 IC - 東北中央自動車道 - 東北自動車道 (福島 JCT (仮称)) 順次連結予定

